

平成27年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立院庄小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

心とからだをきたえ、ともに学び合う児童の育成

- ・すすんでまなぶ子
- ・やさしい子
- ・やりぬく子

今年度の指導の重点

つながりを大切に ~言葉のちからで~

- ・人・自然・社会にかかわり合いながら学習する子どもを育てる。
- ・友だちとなかよくできる子どもを育てる。
- ・互いに支え合い最後までがんばる子どもを育てる。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

国語A、理科については、県平均と比べると正答率が高く、算数はA Bともにほぼ同程度である。
 国語Bについては、県平均と比べると正答率は低い。
 国語の「書くこと」領域の正答率は、Aでは県平均を上回り、Bでは県平均を下回っている。
 国語Aでは、「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の3領域で、正答率が県平均を上回っている。
 算数Aでは、「量と測定」「図形」「数量関係」の3領域では県平均を上回ったが、「数と計算」領域は下回っている。
 算数Bでは、「数と計算」領域では県平均を上回ったが、「量と測定」「図形」「数量関係」の3領域では下回っている。
 理科では、主として「知識」に関する問題では県平均を下回り、主として「活用」に関する問題では上回っている。

登場人物の相互関係を捉える(国語A):本校85%(県66%)
 【文章】の要旨をまとめて書く(国語B):本校67%(県79%)
 示された割引後の値段の求め方の中から誤りを見だし、正しい求め方と答えを書く(算数B):本校37%(県51%)

【学習状況調査の結果】

平日にテレビを1時間以上見る児童の割合は、県平均よりも低い。
 平日にゲームを1時間以上する児童の割合は、県平均よりも高い。
 平日に携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを1時間以上する児童の割合は、県平均よりも高い。
 平日に1時間以上上家庭学習をする児童の割合は、県平均よりも高いが、土日には低い。
 平日に読書を全くしない児童の割合は、県平均よりもかなり低い。
 「あいさつをしている」児童の割合が、昨年度よりも高くなっている。
 「今住んでいる地域の行事に参加している」児童の割合は、県平均よりも高い。
 5年生までに受けた授業のはじめに、「めあてが示されていた」という児童の割合は、県平均よりも高い。
 5年生までに受けた授業の最後に、「学習内容を振り返る活動をしていた」という児童の割合は、県平均よりも低い。

成果と課題

「漢字の読み書き」「四則計算」等の基礎的な力は、昨年と同様に定着率が高い。
 家庭学習の習慣が、定着しつつある。
 読書の習慣は昨年同様に高い定着率であり、「読書が好き」という児童の割合(85%)が、昨年度(60%)よりも高くなった。
 国語・算数ともに、記述式の問題形式では無解答率が高くなる傾向がある。
 長文を含む問題では、尋ねられていることに対する情報の取り上げ方や、答え方等が食い違っていることが多い。
 テレビ等の視聴時間は長い方ではないが、その代わりにゲームやスマートフォン等をしている傾向が見受けられる。

課題に対応した改善方法

引き続き読み聞かせボランティアと協力しながら、さまざまな内容の本とふれあう機会をより多く持つとともに、学級等で工夫し、落ち着いた読書に取り組む経験を積ませる。
 「朝自習」や「ふり返し学習」の時間を有効に活用し、既習の漢字や計算等を繰り返し復習する。
 視写等の活動を通して、長い文章や論理的な文章を書く経験を積ませる。
 めあてとまとめを明示した授業を継続し、ふりかえりの時間も確保する。
 家庭学習100%提出の取組を継続する。
 児童の家庭での生活や学習習慣を整える取組を、今後も続けていく。
 人のために働く経験を積み、その行動を価値づけすることで、児童の自己有用感を高める。

取組の検証方法及び検証時期

2月に学力テストを全学年で実施。
 児童アンケートを毎学期末に実施。
 保護者に協力を働きかけ、家庭学習をさらに充実させる。
 上記の結果を受けて、指導方法等の改善を図る。

平成28年度津山市達成目標に対する具体的な目標(数値目標等)

学力テストでは、50%以上の学級が正答率で全国平均を上回る結果を出す。
 宿題の提出率を、全学年で90%以上にする。
 「自分のいいところ」を、全学年全児童が5つ以上言えるようにする。
 全校で、年間平均100冊以上の読書量を達成する。